

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 4月 1日

## 【評価実施概要】

|       |                                  |       |            |
|-------|----------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 0173700287                       |       |            |
| 法人名   | 有限会社 グループホーム コスモス                |       |            |
| 事業所名  | 有限会社 グループホーム コスモス                |       |            |
| 所在地   | 伊達市長和町609番地<br>(電話) 0142-25-3311 |       |            |
| 評価機関名 | 株式会社 サンシャイン                      |       |            |
| 所在地   | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F            |       |            |
| 訪問調査日 | 平成22年3月29日                       | 評価確定日 | 平成22年4月11日 |

## 【情報提供票より】( 22年 3月 15日事業所記入 )

### (1) 組織概要

|       |                   |         |                     |
|-------|-------------------|---------|---------------------|
| 開設年月日 | 昭和(平成) 15年 9月 10日 |         |                     |
| ユニット数 | 2 ユニット            | 利用定員数計  | 18 人                |
| 職員数   | 18 人              | 常勤 15人、 | 非常勤 3人、<br>常勤換算 17人 |

### (2) 建物概要

|      |        |       |     |
|------|--------|-------|-----|
| 建物構造 | 鉄骨 造り  |       |     |
|      | 2 階建ての | 1 ~ 2 | 階部分 |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |          |                |                |   |
|---------------------|----------|----------------|----------------|---|
| 家賃(平均月額)            | 45,000 円 | その他の経費(月額)     | 水道光熱費: 15,000円 |   |
| 敷金                  | 有(円)     | 無              |                |   |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有(円)     | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無          |   |
| 食材料費                | 朝食       | 円              | 昼食             | 円 |
|                     | 夕食       | 円              | おやつ            | 円 |
|                     | または1日当たり |                | 1,200 円        |   |

### (4) 利用者の概要( 3月 29日現在 )

|       |           |       |      |    |      |
|-------|-----------|-------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名      | 男性    | 4 名  | 女性 | 13 名 |
| 要介護 1 | 3 名       | 要介護 2 | 3 名  |    |      |
| 要介護 3 | 3 名       | 要介護 4 | 4 名  |    |      |
| 要介護 5 | 4 名       | 要支援 2 | 0 名  |    |      |
| 年齢    | 平均 80.5 歳 | 最低    | 73 歳 | 最高 | 97 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                            |
|---------|----------------------------|
| 協力医療機関名 | 小熊内科医院、伊達クリニック、ミネルバ病院、中村歯科 |
|---------|----------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム コスモスは、気候が温暖で自然の豊かな環境に立地している。2階建ての1階には広い多目的ホールがあり、ガラスを隔て自然との一体感が得られる環境である。レクリエーションや運動、ユニット間の憩いの場などに利用し、栗の木が広がる裏庭と同様に有効に活用されている。看護師である管理者は運動、歌会、口腔ケアなど健康維持に取り組む一方、開設6年目を経て介護度の重度化から家族の希望に応じてターミナルケアを実践している。また利用者の個性を大切にしながらもケアの統一を図り、日々職員の教育を徹底してサービスの質向上を目指している。利用者の健康管理や環境作りを重要視し、安全、安心した環境を提供している。

## 【重点項目への取組状況】

|      |  |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)   |
|      | <p>昨年の外部評価の結果後、プライバシーの配慮から一覧での面会簿について家族にアンケートを実施した結果、問題がないのでメリット面から継続している。災害対策で市の担当者や消防署と相談し、今年度にスプリンクラーの装置を終了している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は前年度と同様に全員が評価表に記入して完成させている。自己評価を実施することで近隣の人との関係や災害対策の協力体制が必要と認識している。外部評価の結果後に自己評価の課題なども入れて話し合う予定でいる。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>昨年は運営推進会議を3回開催している。2~6人の家族、市の職員、自治会から数人の役員、民生委員の他に近所からも数人が参加し、事業所からの報告や災害対策、感染症などについて話し合っている。行政、地域住民、家族からそれぞれの意見、また協力の申し出がありサービスや運営に繋げている。</p>  |
|      | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>誕生会や行事の写真を中心に掲載した「コスモスだより」を毎月発行し、普段の暮らしを報告している。多目的ホールに意見箱を設置し、事業所行事に家族が参加した機会に要望などを聞いている。意見などは職員間で共有し、家族の気掛かりなことを事前に把握し対処している。</p>  |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の事情から会には加入していないが、地域と交流することを目的として関係作りに努めている。2ヶ所の神社祭に出かけ、子ども神輿が事業所に立ち寄るのを楽しみにしている。小学校の運動会や学芸会には招待があり参加している。事業所の会食行事や遠出の花見に、家族の他、住民や運営推進会議のメンバーも参加し交流を楽しんでいる。</p>   |

## 2. 評価結果（詳細）

| 外部評価                         | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| <b>. 理念に基づく運営</b>            |      |  |   |                     |                                  |
| <b>1. 理念と共有</b>              |      |  |   |                     |                                  |
| 1                            | 1    | 地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている    | 開設当初の理念の中に地域、家族との交流を通して日常生活を支える内容の文言を盛り込み、「ゆっくり・たのしく・いっしょに」をモットーに、家庭的な環境で当たり前の暮らしができるように、理念に沿って日々実践している。  |                     |                                  |
| 2                            | 2    | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                       | 理念は1階の多目的ホールに掲げ、事業所の運営規定に記載して周知している。職員はカードに記載した理念を常に携帯し折に触れて見ている。日々の申し送り、ミーティング、会議などで利用者を急がせていないが、また、ゆっくりと楽しく職員も共に過ごしているかを確認している。                             |                     |                                  |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |      |  |   |                     |                                  |
| 3                            | 5    | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会の事情から会には加入していないが、地域と交流することを目的として関係作りに努めている。2ヶ所の神社祭に出かけ、子ども神輿が事業所に立ち寄るのを楽しみにしている。小学校の運動会や学芸会には招待があり参加している。事業所の会食行事や遠出の花見に、家族の他、住民や運営推進会議のメンバーも参加し交流を楽しんでいる。 |                     |                                  |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |      |  |   |                     |                                  |
| 4                            | 7    | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる   | 自己評価は前年度と同様に全員が評価表に記入して完成させている。自己評価を実施することで近隣の人との関係や災害対策の協力体制が必要と認識している。外部評価の結果後に自己評価の課題なども入れて話し合う予定でいる。  |                     |                                  |

| 外部評価                   | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| 5                      | 8    | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>              | <p>昨年は運営推進会議を3回開催している。2～6人の家族、市の職員、自治会から数人の役員、民生委員の他に近所からも数人が参加し、事業所からの報告や災害対策、感染症などについて話し合っている。行政、地域住民、家族からそれぞれの意見、また協力の申し出がありサービスや運営に繋げている。</p>       |                     |                                  |
| 6                      | 9    | <p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>                               | <p>災害対策について市の担当者や消防署と相談し、今年度にスプリンクラーの装置を終了している。運営推進会議の他に、運営に関する相談、利用者の受け入れや成年後見人制度の利用など、管理者と市の担当者とは頻繁に行き来する中で常に相談できる関係を築いている。</p>                       |                     |                                  |
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |      |  |   |                     |                                  |
| 7                      | 14   | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>                              | <p>誕生会や行事の写真を中心に掲載した「コスモスだより」を毎月発行し、普段の暮らしを報告している。便りと一緒に金銭出納と領収書を家族に送っている。必要な時は管理者からメッセージを添えて報告することもある。職員の異動や健康に関しては来訪時に伝えており、受診の結果で必要な時は電話で報告している。</p> |                     |                                  |
| 8                      | 15   | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>                                | <p>多目的ホールに意見箱を設置し、事業所行事に家族が参加した機会に要望などを聞いているが苦情などは特にならない。意見などは職員間で共有しているが、家族の気掛かりなことを事前に把握し対処している。また外部評価の結果後に課題などについても、毎年家族にアンケートを実施し意見を聞いている。</p>      |                     |                                  |
| 9                      | 18   | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>運営者は職員が働きやすいように環境を整え、馴染みの職員の離職を最小限に抑えている。ユニット間の異動があっても合同の行事などから職員とは顔馴染みなので特にダメージはない。職員の交代時には勤務時間を延長したり、統一したケアを行い利用者の不安に配慮している。</p>                   |                     |                                  |


| 外部評価                             | 自己評価 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|---------------------|----------------------------------|
| <b>5. 人材の育成と支援</b>               |      |   |  |                     |                                  |
| 10                               | 19   | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じ、育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>                 | <p>運営者は職員の育成を重要視し学べる環境を作り、資格取得に向けても積極的に支援している。職員は、道、市の主催、広域連合会主催などの研修を受講し、年に数回は外部の研修に参加している。「認知症介護実践研修」の受講率も高い。外部で学んだ内容を報告書にして職員間で共有している。毎月合同で勉強会を行った後にユニットで内容を討議し、統一したケアで利用者が混乱しないように取り組んでいる。</p> |                     |                                  |
| 11                               | 20   | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>       | <p>北海道グループホーム協会、胆振管内広域連合会の研修会に職員も参加している。また「認知症介護実践研修」の受講で、5人の職員が他事業所で実習し交流を得ている。管理者は地域の他事業所と連絡を取り合っているが、理念などの考え方もあるので全面的な交流は難しいが、利用者への対応などはサービスに活かしている。</p>  |                     |                                  |
| <b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>        |      |   |  |                     |                                  |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |      |   |  |                     |                                  |
| 12                               | 26   | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>家族、本人の見学を勧め、入院中で来られない時は数回訪問して情報を得ると共に顔馴染みになり、安心できるように配慮している。入居後は利用者の生活歴などを考慮し、無理強いしないように見守っている。帰宅願望があっても1階の多目的ホールを歩いて落ち着くこともある。職員は利用者に合わせて環境に馴染めるよう、工夫しながら柔軟に対応している。</p>                        |                     |                                  |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b> |      |   |  |                     |                                  |
| 13                               | 27   | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>                        | <p>管理者は利用者と一緒に過ごすことを最も大切にして指導している。職員はケアや業務に携わりながらも少しでも座って利用者とうエス畳みやおやつを一緒に作り、コミュニケーションの中で利用者の能力を引き出すように対応している。生活歴を活かし、料理の上手な人から魚の食べ方や味付けの加減、調理の仕方を学んでいる。</p>                                       |                     |                                  |

| 外部評価                                  | 自己評価 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|---------------------|-----------------------------------|
| <b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>     |      |   |  |                     |                                   |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                    |      |   |  |                     |                                   |
| 14                                    | 33   | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>  | 健康に影響がある場合を除き、利用者の希望はできるだけ叶えるように対応している。生活歴から力仕事を得意とする利用者には介護計画に反映させて、その場面作りをしている。職員は利用者の訴えや希望を取り上げ、申し送りなどに提案して対応を話し合っている。  |                     |                                   |
| <b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b> |      |   |  |                     |                                   |
| 15                                    | 36   | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>     | 入居時に「総括自立支援プログラム」サービス評価表を用いてアセスメントを行い、計画策定者が1週間～10日間の暫定初期計画を立てている。また、入居時に家族の想いシートを活用して、本人の生活について意向を受けている。その後は、職員がカンファレンスで本人の状況を再アセスメントし、検討した内容を本計画に反映させ、家族の同意を得て作成に至っている。            |                     |                                   |
| 16                                    | 37   | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | 介護計画は短期3ヶ月、長期6ヶ月の期間を定め、期間毎及び状態変化時に見直しを行っている。居宅介護支援経過記録で特筆事項や概要を記し、カンファレンスで利用者の全体像を更に共有化している。ケアマネージャーや職員がメンバーとなるサービス担当者会議で課題となる内容を議論し、新たな計画作成に繋げている。モニタリングのより良いシステムについて検討したい意向を示している。 |                     |                                   |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>              |      |   |  |                     |                                   |
| 17                                    | 39   | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>                                   | 医療連携体制加算を活かし、利用者負担となる入院回避、家族の状況に応じた通院支援やショートステイ、訪問理美容が受けられるなど、利用者や家族が安心して暮らし続けていくための必要となる支援に取り組んでいる。   |                     |                                   |

| 外部評価                               | 自己評価 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|---------------------|----------------------------------|
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |      |   |   |                     |                                  |
| 18                                 | 43   | <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>              | <p>入居の際に希望のかかりつけ医を聞き、通院支援などについて家族と協議しながら意向に沿う医療機関での受診が可能である。協力医療機関とは緊密な医療連携を図り、いつでも相談できる体制である。突発的な受診の際や定期受診で特変があった場合などは、家族にその都度連絡をして合意を得ている。</p>                      |                     |                                  |
| 19                                 | 47   | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>入居時に、重度化・終末期における家族や本人の意向や希望を聴き、事業所で可能な対応について示しながら、終末期生活支援に関する個別のインフォームドコンセントを交わしている。家族の意見が変わった場合は申し出を願い、家族などの状況にも配慮した内容となっている。医療関係者と職員がチームとなってターミナルケアに取り組んでいる。</p> |                     |                                  |
| <b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>     |      |   |   |                     |                                  |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |      |   |   |                     |                                  |
| (1)一人ひとりの尊重                        |      |   |   |                     |                                  |
| 20                                 | 50   | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>                          | <p>個人情報の利用目的について明示したものを家族に提示し、個人記録類については事務室に保管して情報の取り扱いに留意している。職員は利用者の行動や言葉を否定せず、受け入れる気持ちを持って接することを基本としている。排泄の誘導はプライドが傷付かないようさり気ない声かけを行い、プライバシーにも配慮している。</p>          |                     |                                  |
| 21                                 | 52   | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>            | <p>事業所一日の生活の中で、3度の食事時間やリハビリ活動時間帯などのおおよその決めことはある。利用者がゆっくりと起床した場合はその時々状況に合わせて食事の支援を行い、レク活動も強いることなく希望に沿う対応を行い、一人ひとりのペースに合わせ本人の望む過ごし方ができるよう努めている。</p>                     |                     |                                  |

| 外部評価                          | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |      |  |   |                     |                                  |
| 22                            | 54   | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 職員が知恵や工夫を持って作成した献立で食事が提供され、野菜の下ごしらえや調理、味付け、後片付けなど、一人ひとりの得意分野で力を発揮してもらっている。裏庭での昼食やバーベキュー、外食、祝い膳、昔ながらの季節行事食も取り入れ、時には家族や地域の方々との食事会を催すなど食の支援に力を注いでいる。 |                     |                                  |
| 23                            | 57   | 入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | おおよそ午後からの時間帯で毎日入浴支援を行い、一人週2回は入浴できるようにしている。意向があれば健康状態に留意しながら毎日でも可能である。精神面に配慮をして入浴は無理強いせず、翌日に入浴を促したり、その時々で声かけを工夫し、安心安全な入浴支援に努めている。                  |                     |                                  |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |      |  |   |                     |                                  |
| 24                            | 59   | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 歌会で合唱や独唱を楽しみ、動作を交えるレクリエーションも数多く提供して、リハビリを兼ねた活動療法的支援をしている。踊りボランティアを招き誕生会を盛り上げ、畑仕事、家事、椅子の出し入れ、菓子箱作りなど、利用者の希望する役割を張り合いに結び付け、力の発揮場面となるよう取り組んでいる。      |                     |                                  |
| 25                            | 61   | 日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 天気の良い暖かい日は散歩を行い、外気に触れることを大切にしている。洞爺湖一周や虻田・有珠漁港をドライブで巡り、地域の名物や利用者の好みのもを行く先々で味わっている。白老温泉旅行や桜満開時の伊達記念公園での花見は恒例行事となり、利用者の楽しみな外出となっている。                |                     |                                  |
| (4) 安心と安全を支える支援               |      |  |   |                     |                                  |
| 26                            | 66   | 鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 玄関は日中帯において日常的に施錠しておらず、防犯上の理由により夜間は施錠している。居室や居間を出ると、広大な自然の景色が広く見渡せる多目的ホールと続き、設計上の環境的工夫や配慮などもあり不意の外出がない状況である。                                       |                     |                                  |

| 外部評価                       | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|----------------------------|------|--|---|---------------------|---|
| 27                         | 71   | 災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている                                | 年に2回、昼夜を想定した火災避難訓練を消防署の協力を得ながら実施している。職員、利用者、運営推進会議メンバー、地域住民が訓練に参加し、初期消火や避難・誘導方法の指導を受けている。自衛消防団の結成、災害備蓄品の確保、スプリンクラーの設置、緊急連絡網、防災マニュアルを整備し、年に1回救急救命訓練を行っている。                     |                     | 気象庁が24時間体制で監視する「常時観測火山」の周辺市町村に伊達市は含まれている。行政や消防署の指導を仰ぎながら、災害種別に応じた利用者の安全確保や避難誘導法などの訓練や万が一に備える対策などについても再確認を持ち、災害対策の強化に取り組まれることを期待したい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |      |  |   |                     |   |
| 28                         | 77   | 栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下状態を見極め、健康状態に合わせた食事形態で提供し、ミキサー食では提供量を計測して毎食の管理を行っている。水分は1800cc、カロリー1600を目途に提供し、その都度摂取量を記録して、一日全体を通じ水分、栄養の過不足が生じないよう支援している。                                       |                     |   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり    |      |  |   |                     |   |
| (1) 居心地のよい環境づくり            |      |  |   |                     |   |
| 29                         | 81   | 居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 床面にクッションラバーを施した多目的ホールは、籐椅子やリクライニングチェアを配し、ガラス越しに四季を感じさせる裏庭や山々が見渡せ、個々に過ごす場とレクリエーションの活動場所となっている。全体的に清潔感があり、洗面台は使い勝手に配慮されている。キッチンと一体型のリビングダイニングは明るく、利用者が一つの家族となって集っており居心地の良さが窺える。 |                     |   |
| 30                         | 83   | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 居室は、入室時での場所間違いの防止策として一人ひとりに応じたさり気ない飾りの目印を設け、見当識に配慮されている。入居時には利用者が使い慣れた物品などを持ち込めるよう支援し、その後は利用者の状態に応じて、配置変えやクローゼットに分かりやすく日用品を収納し、安全に過ごせるよう個別の支援を行っている。                          |                     |   |

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。